

第3章 まちづくりの目標

3-1 都市計画マスタープラン（まちづくり）の基本目標

わいわい わくわく 安全安心のまち かつやま

勝山市都市計画マスタープランの上位計画である第6次勝山市総合計画では、勝山市が目指す10年後のまちの姿を「わいわい わくわく 安全安心のまち かつやま」と定め、勝山市に関わる全ての人々が、安全安心の中で、笑顔があふれ、わいわいわくわく暮らせるまちをつくることを目指しています。

勝山市都市計画マスタープランにおけるまちづくりの基本目標は、総合計画と同じ『わいわい わくわく 安全安心のまち かつやま』と定め、総合計画でのまちの姿を踏まえつつ、都市計画・まちづくりからの視点として、次のようなまちの姿を目指します。

わいわい

市民や事業者だけでなく、勝山市外に住む関係人口も積極的にまちづくりに参画し、各主体の得意分野を生かしながら、いろんな場面で協働のまちづくりが活発に行われるまちを目指します。

交通アクセスの向上や新しい技術の活用などにより、農業、工業、商業、観光の各産業活動の活性化を図ります。

わくわく

市街地や農山村地域など市民のライフスタイルに応じた居住の場の選択が可能で、それぞれの地域でのコミュニティ活動を通じて、市民がいきいきと暮らせるまちを目指します。

ジオパークの推進により、地域の魅力や活力の一層の向上を図り、訪れる人がまちを楽しむとともに、関係人口の構築を目指します。

安全安心のまち

定住や産業の活性化等を推進する上で、災害に対する強靭さが必須要件であり、土砂災害や洪水、地震、火災などの災害に強いまちづくりを目指します。特に、冬期の課題である雪対策の強化を図ります。

市民の生活や産業活動の基礎となる社会基盤や公共施設の老朽化等に対応して適切な維持管理・更新等を図り、まちの安全性を高めます。

かつやま

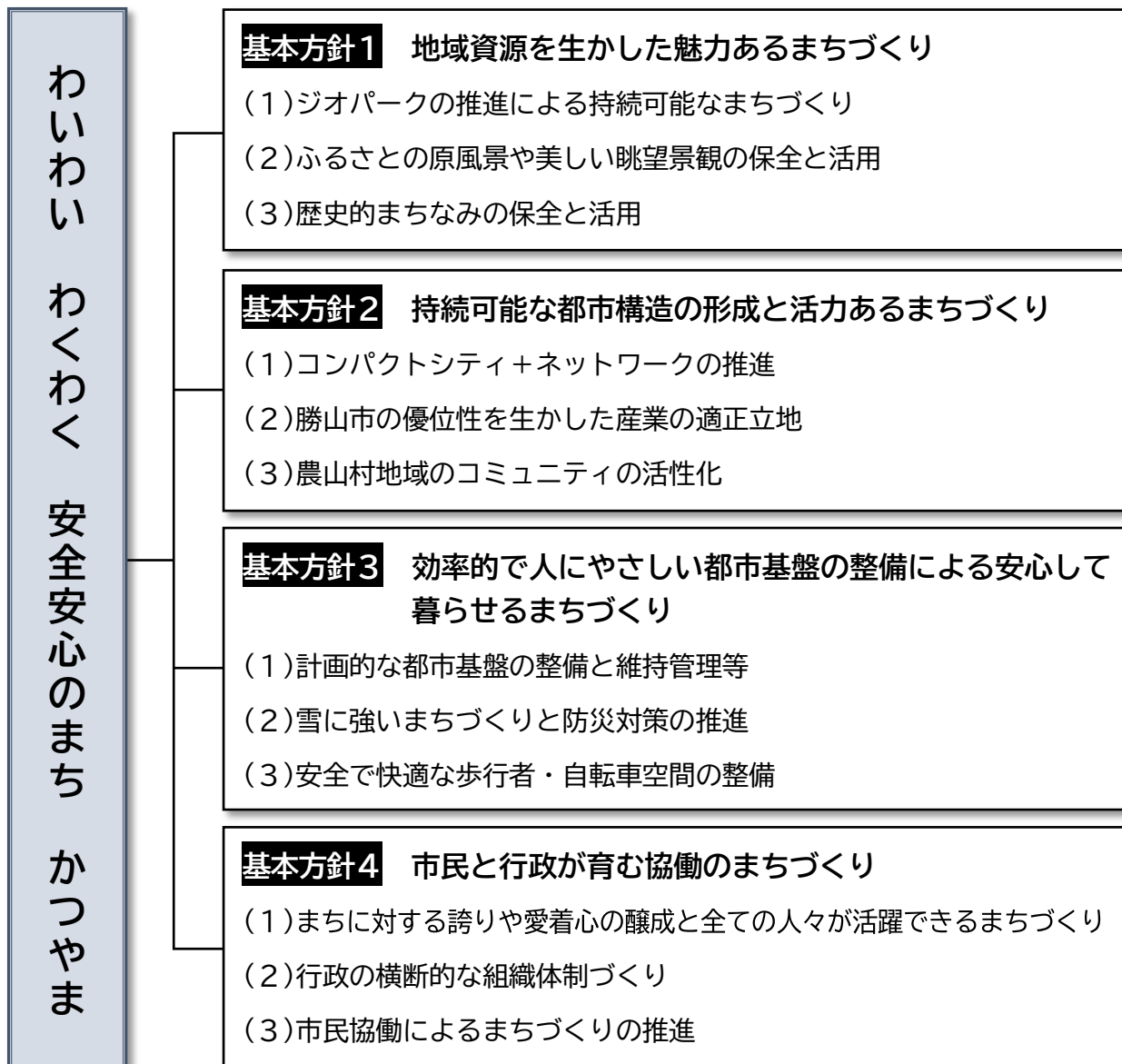
「わいわい」「わくわく」「安全安心」のまちづくりを総合的に進めることで、まちの個性や魅力を高め、まちに対する誇りや愛着に繋がります。

そして、人口減少や少子・高齢化、財政の悪化などの厳しい社会情勢にある中でも、いつまでも住み続けたい、帰ってきたい、いつかは住んでみたいと思えるまち＝「選ばれるまち かつやま」の実現を目指します。

3-2 まちづくりの基本方針

勝山市都市計画マスタープランのまちづくりの基本目標「わいわい わくわく 安全安心のまち かつやま」が目指すまちの姿を実現するため、次の4つの基本方針を設定します。

第4章の分野別まちづくりの方針は、この4つの基本方針を踏まえて設定します。



勝山城から市街地方面への空撮



勝山橋から市街地方面への空撮

基本方針1 地域資源を生かした魅力あるまちづくり

(1) ジオパークの推進による持続可能なまちづくり

ジオパークとは、地域内に地球科学的価値のある「大地の遺産（地形・地質遺産）」を有する自然公園で、地域内の生態系（自然遺産）や文化・歴史・産業（文化遺産）の成り立ちにも影響を与えています。ジオパークは、これらの遺産を保護・保全すると同時に、教育やツーリズム、産業振興に活用することで、地域の持続可能な開発を目指す仕組みでもあります。

「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク魅力活用事業補助金」を活用し、市民が地域に対する自信や誇りをもちながら協働のまちづくりを推進するとともに、その魅力を全国に発信しながら、観光・交流の活性化を図ります。



ホワイトザウルスと恐竜博物館



ゆめおーれ勝山



ジオパークツアー

(2) ふるさとの原風景や美しい眺望景観の保全と活用

霊峰白山とそれにつながる加越国境の山々を背景に、盆地に広がる田園空間と盆地を縦貫して流れる九頭竜川によって形成されるパノラマ状の眺望景観は、勝山市の特長的な景観です。

このふるさとの原風景に対する市民の誇りや愛着心の醸成を図るとともに、来訪者に対して美しい勝山市をアピールする要素として、土地利用や景観形成等に関するルールに基づいて適正に保全します。



鹿谷町から白山への眺望



勝山城・越前大仏と蕎麦畑



九頭竜川から白山への眺望

(3) 歴史的まちなみの保全と活用

白山平泉寺旧境内（国指定史跡）とともに、日本遺産「福井・勝山 石がたり」の構成要素である市街地の七里壁及び大清水の周辺には、それぞれの時代背景の下で築かれた歴史的な雰囲気を感じられるまちなみが形成されており、これらの保全及び調和したまちなみの形成を図るとともに、ゆっくりと散策や滞在が楽しめるまちづくりを進めます。



白山平泉寺旧境内



七里壁



本町通りのまちなみ

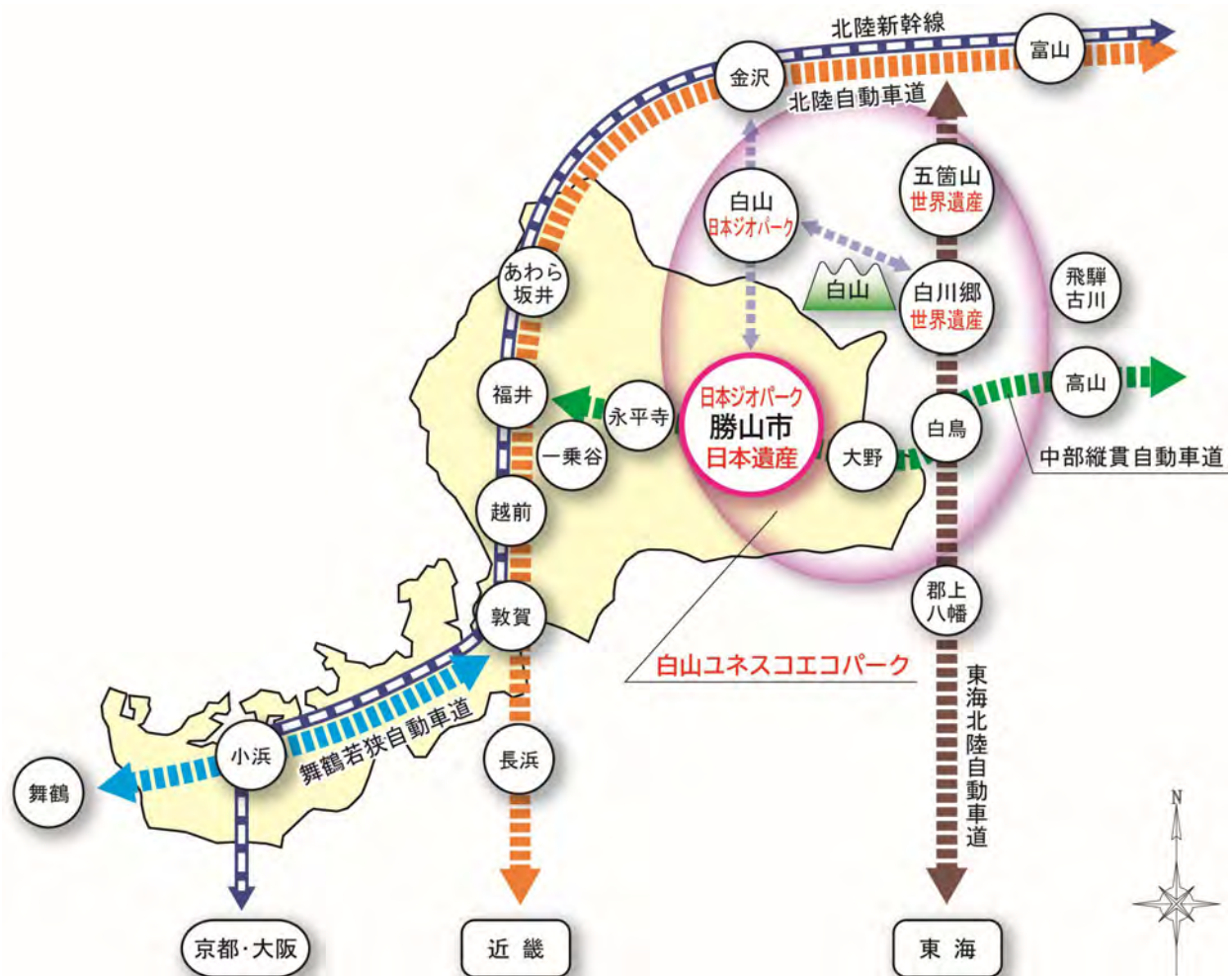


図 3-1 広域圏から見た勝山市の位置

◆日本ジオパーク

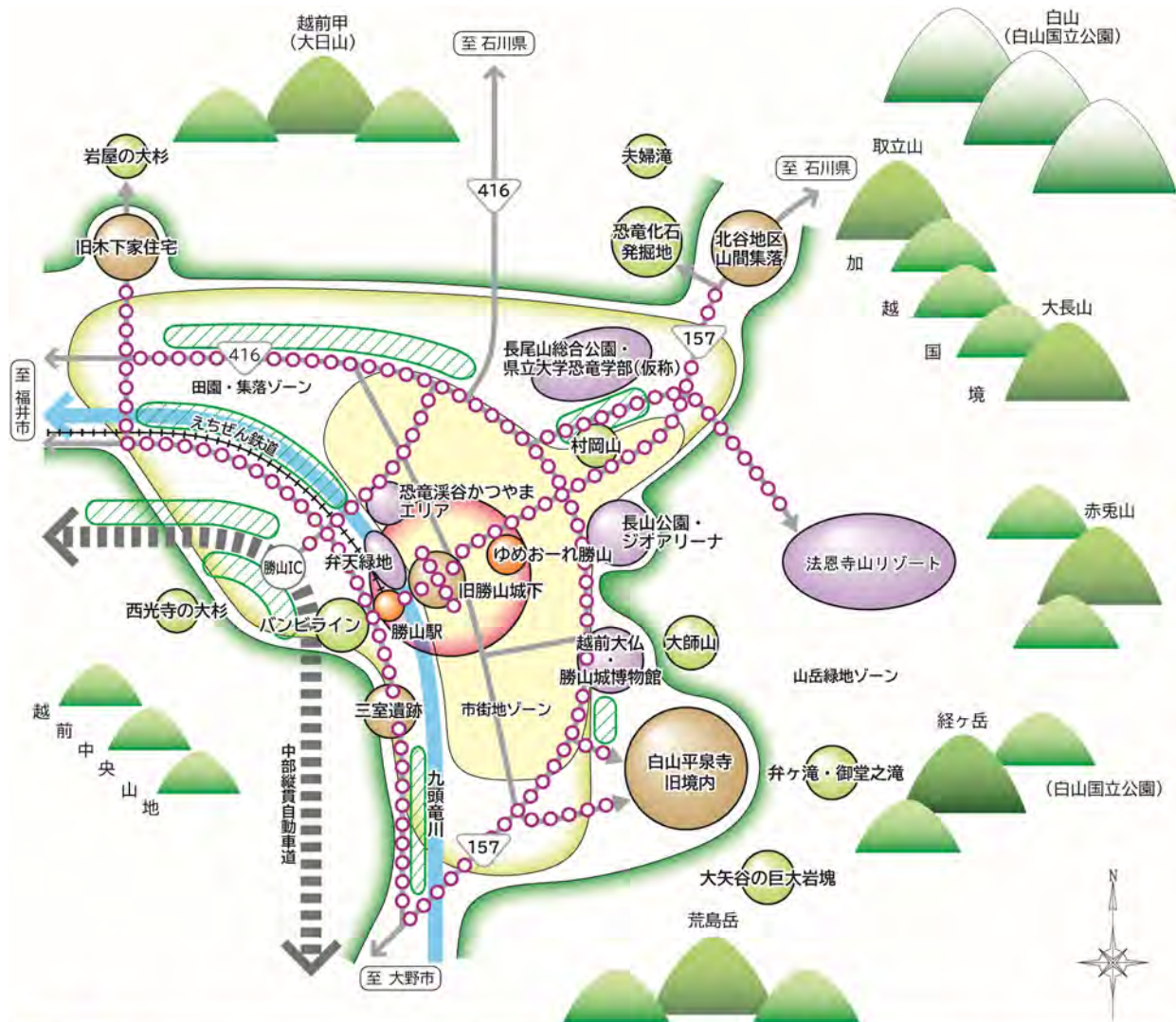
- ・「地球・大地（ジオ：Geo）」と「公園（パーク：Park）」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球（ジオ）を学び、丸ごと楽しむことができる場所をいいます。
- ・令和 4 年（2022 年）2 月現在、日本では 46 地域が日本ジオパーク委員会によって認定されています。勝山市は、平成 21 年（2009 年）に「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」として認定されました。

◆日本遺産

- ・地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもので、地域に点在する遺産を「面」として活用し、発信することで、地域活性化を図ることを目的としています。
- ・勝山市は、中世の白山平泉寺、近世の勝山城下の七里壁から現在のまちなみに至るまで、石と共生した歴史文化を有しており、それらは、福井市の一乗谷朝倉氏遺跡などとともに「福井・勝山 石がたり」として認定されています。

◆白山ユネスコエコパーク

- ・生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共存）を目的とする取り組みで、令和 2 年（2020 年）10 月現在、129 カ国、714 地域（国内 10 地域）で登録されています。
- ・白山ユネスコエコパークは、霊峰白山を中心とする 4 県 7 市にまたがっており、白山の自然や文化の価値を守り伝えるための様々な取り組みや活動を行っています。



主要な地域資源	自然遺産 ・恐竜化石発掘地 ・大清水、七里壁 ・大矢谷の巨大岩塊 ・村岡山、大師山 ・パンピライン ・夫婦滝、弁ヶ滝、御堂之滝 ・岩屋の大杉、西光寺の大杉 (地形・地質遺産)	観光・緑地・レクリエーション資源 ・長尾山総合公園 (かつやま恐竜の森) ・福井県立大学恐竜学部(仮称) ・恐竜渓谷かつやまエリア (道の駅「恐竜渓谷かつやま」周辺) ・長山公園・ジオアリーナ ・越前大仏、勝山城博物館 ・弁天緑地、弁天桜 ・法恩寺山リゾート	九頭竜川 えちぜん鉄道 (日本の鉄道車窓絶景100選) 中部縦貫自動車道・勝山IC 主要な道路ネットワーク 主要な周遊ルート 眺望景観が楽しめるエリア 市街地ゾーン 田園・集落ゾーン 山岳緑地ゾーン
	歴史遺産 ・白山平泉寺旧境内 ・旧木下家住宅 ・三室遺跡 ・旧勝山城下 ・北谷地区山間集落	コアゾーン ・旧勝山城下のまち並み ・成器堂、開善寺 ・はたや記念館ゆめおれ勝山 ・花月楼 ・大清水、七里壁 ・勝山左義長、年の市、商店街 ・中央公園 ・九頭竜川、弁天緑地、弁天桜 ・えちぜん鉄道勝山駅	
	産業遺産 ・はたや記念館 ゆめおれ勝山 ・勝山駅(国登録有形文化財)、 テキ6展示施設	地域資源の集積地	

図 3-2 主要な地域資源とネットワークの概念図

- ◆恐竜渓谷かつやまエリア（道の駅「恐竜渓谷かつやま」周辺）を都市の構造として新たに位置付け、まちの玄関口としての機能導入や土地利用の規制誘導、良好な景観の保全・創出を図ります。
- ◆勝山市にしかない地域資源の保全と魅力向上によりまちのアイデンティティを高め、市民の誇りや愛着心の醸成を図るとともに、地域資源相互のネットワークを強化することで、市内の周遊性や滞在性の向上を図ります。

基本方針2 持続可能な都市構造の形成と活力あるまちづくり

(1) コンパクトシティ+ネットワークの推進

①生活サービス機能や居住の適正誘導

人口減少や少子・高齢化、市街地の空洞化、財政の悪化等の課題に対応するため、勝山市立地適正化計画と連携しながら、安全・安心で賑わいがあり、車に過度に依存することなく便利に生活することができる持続可能な市街地の形成を目指して、都市機能や生活サービス機能、居住の適正誘導を図ります。

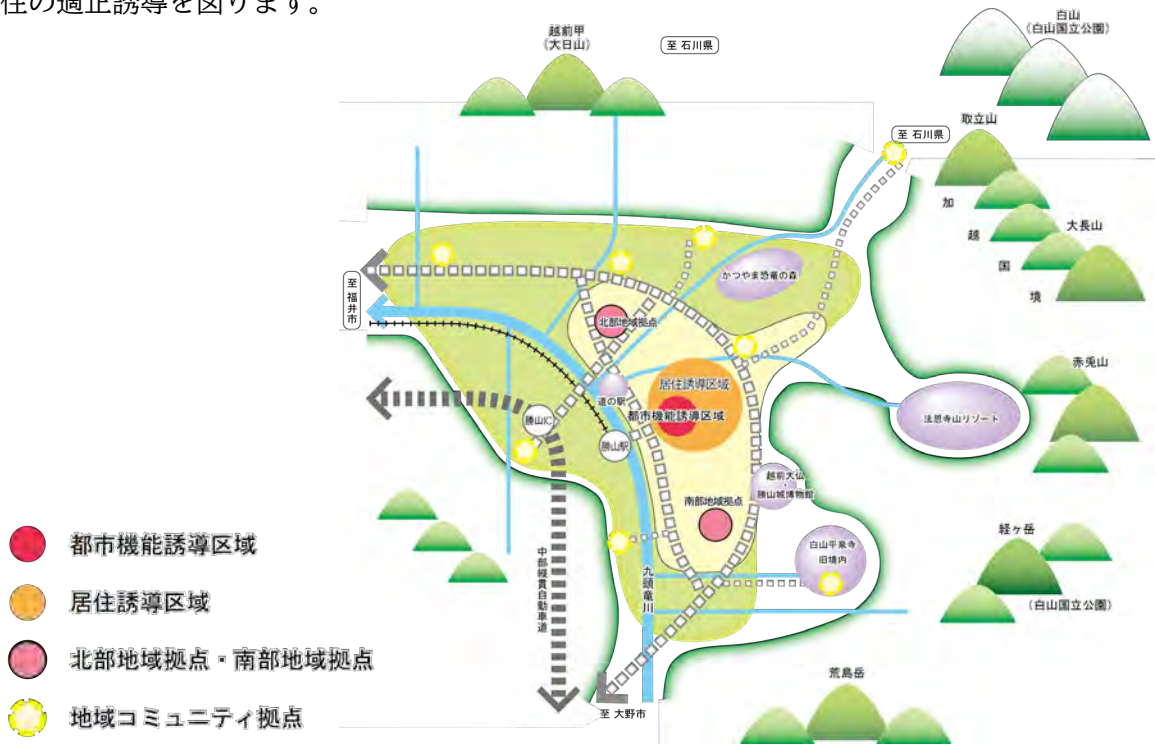


図 3-3 勝山市立地適正化計画が目指す将来都市構造図

②市街地と農山村地域の連携強化

豊かな自然の下での暮らしなどの居住ニーズの多様性に対応し、農山村地域での暮らしの利便性を高めるため、市街地と農山村地域を結ぶ幹線道路網を整備・充実するとともに、特に、高齢者等の交通弱者に対する生活交通を確保するため、利用しやすい公共交通網の実現を目指します。

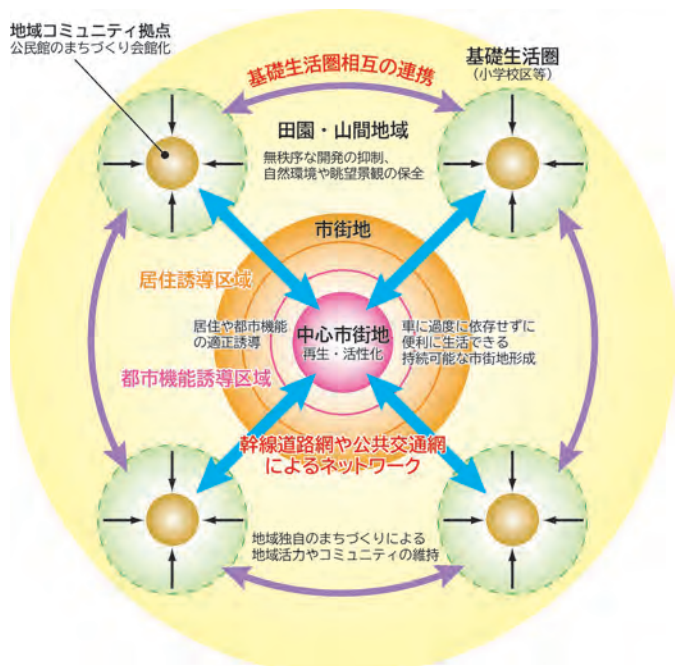


図 3-4 市街地と農山村地域とのネットワークの概念図

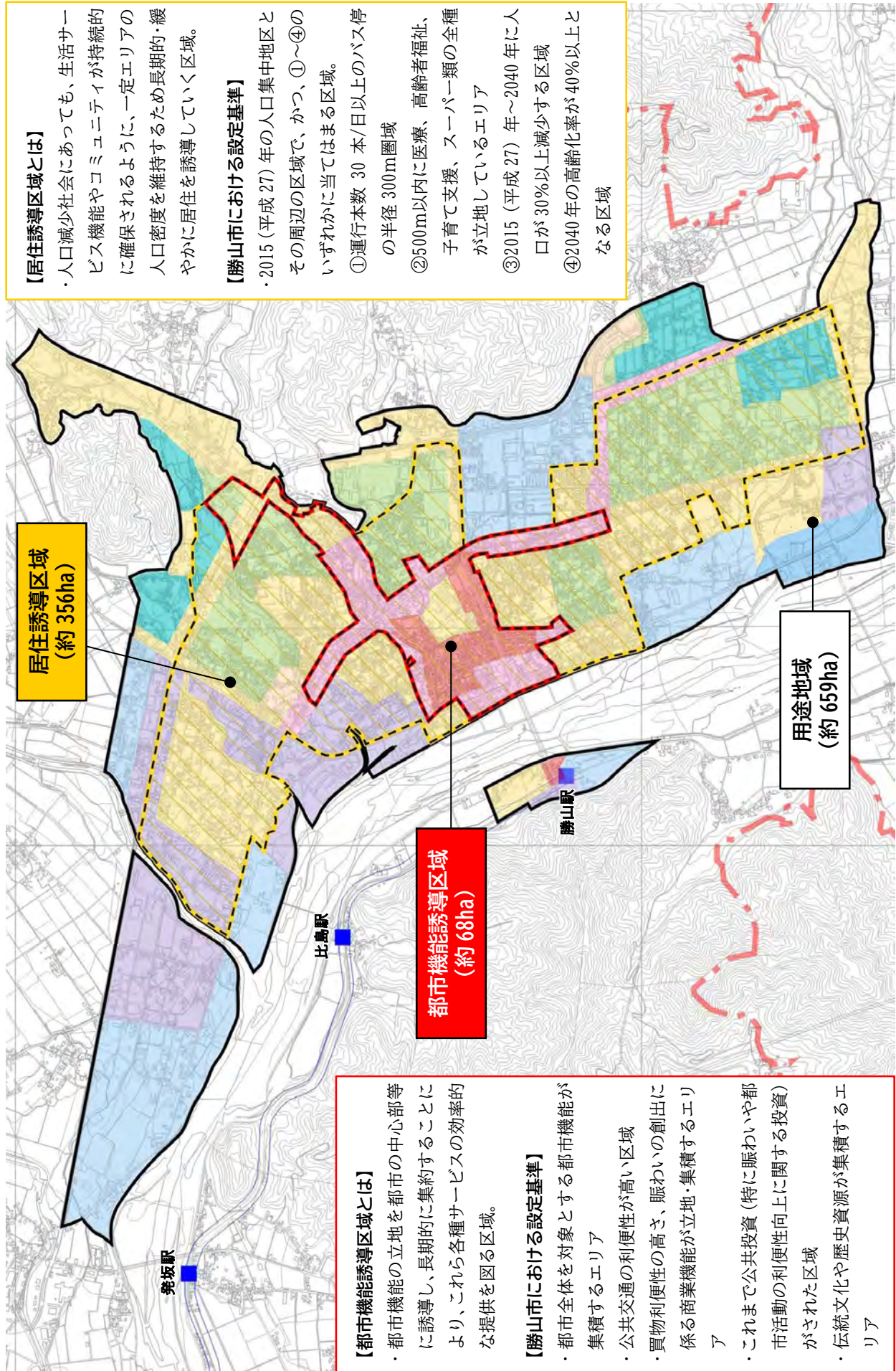


図 3-5 勝山市立地適正化計画における居住誘導区域及び都市機能誘導区域

③既存ストックの適切な維持管理と有効活用

道路・橋梁、上下水道等のライフラインや、公園施設、公共建築物等の老朽化に対応するため、勝山市公共施設等総合管理計画や各種長寿命化計画等に基づいて適切な維持管理・補修や統廃合等を行い、市民の安全・快適な暮らしや円滑な都市活動を支えるとともに、財政負担の軽減化を図ります。

また、これらの既存ストックを有効に生かしたまちづくりを進めるとともに、新たな施設の整備や機能強化等に際しては、民間の資本やノウハウの導入により、より効果的な施設の整備・運営を図ります。

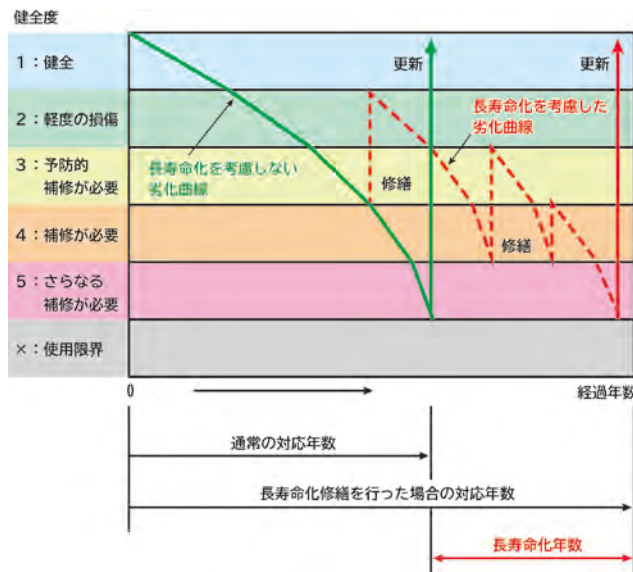


図 3-6 長寿命化対策のイメージ図

（2）勝山市の優位性を生かした産業の適正立地

まちの活力創出や若者世代の定住促進に向けて、居住や農林業との調和、自然災害の危険性等を考慮しながら産業用地の適正な確保を図ります。

中部縦貫自動車道の整備によるアクセス性の向上、ジオパークやエコパーク、法恩寺山リゾート等の優れた地域資源の活用により付加価値を創出し、企業誘致を促進して多様な就業の場の提供を図ります。



下高島周辺の工業集積地

（3）農山村地域のコミュニティの活性化

農山村地域が築いてきた固有の生活文化を継承するとともに、それぞれの地域におけるコミュニティの維持・活性化を図るため、各地区のまちづくり会館、コミュニティセンターを中心に生活拠点を形成し、地域独自のまちづくりを推進します。



北谷町コミュニティセンター



のむき風の郷の活動の様子

基本方針3 効率的で人にやさしい都市基盤の整備による安心して暮らせるまちづくり

(1) 計画的な都市基盤の整備と維持管理等

道路や公園、河川、上下水道等の社会基盤は、整備の緊急性やその効果、地域の実情やニーズなどを勘案しながら、引き続き計画的な整備と適切な維持管理・更新を図るとともに、公共施設については統合・廃止を含めた検討を進め、公共施設総量の長期的な縮減を図ります。

特に、中部縦貫自動車道や国道 157 号等の周辺都市を結ぶ幹線道路、一級河川大蓮寺川等の重要な都市基盤については、県や関係機関等に働きかけながら、整備促進を図ります。

また、北陸新幹線福井・敦賀開業に伴う社会移動や経済活動の広域化のインパクトを市内に引き込むため、えちぜん鉄道の活性化を促進します。

長尾山総合公園（かつやま恐竜の森）は、福井県立恐竜博物館の機能強化や Park-PFI による公園施設の再整備・管理運営を進めるなどにより、通過型観光から滞在型観光へのシフトを図り、勝山市の新たな観光の中心地としての魅力づくりを進めます。また、産官学連携によるジオパークの推進、市民・団体等との交流を通じた地域コミュニティの活性化、市内教育機関や大学との交流・連携等により、新たな形によるまちづくりの創出を目指します。



県道勝山インター線（勝山恐竜橋）



国道 157 号の未改良区間



大蓮寺川改修事業



えちぜん鉄道勝山駅



再整備を予定する中央公園



長尾山総合公園(かつやま恐竜の森)

(2) 雪に強いまちづくりと防災対策の推進

冬期の積雪による市民生活や事業活動等への影響を軽減するため、幹線道路や生活道路、通学路等における除雪体制の強化を推進するとともに、まちなかの狭小道路の除雪や流雪溝の適切な維持管理などを地域ぐるみで取り組むことにより、雪に強いまちづくりを目指します。

土砂災害や浸水による著しい被害が想定される区域では、新たな開発を制限します。また、大蓮寺川流域における浸水被害を防止するため、河川改修事業や雨水排水対策事業を促進するとともに、迅速な情報伝達や避難誘導體制の整備などのソフト対策の強化を図ります。

市街地においては、一部で木造家屋の密集や幅員の狭い道路が見られることから、道路の拡幅整備やオープンスペースの確保などにより総合的な防災対策を強化し、災害に強いまちづくりを目指します。



令和3年の豪雪の状況



木造家屋の密集市街地



市街地内の狭小道路

(3) 安全で快適な歩行者・自転車空間の整備

安全・安心で賑わいがあり、車に過度に依存することなく便利に生活できることを目指す市街地や、農山村地域における通学路等を中心に、歩行者空間の確保や歩道のバリアフリー化を推進します。

また、市民の健康増進や来訪者の周遊性の向上を図るため、全市的な自転車空間のネットワークづくりを進めます。



市街地内の散策ルート



市街地内の散策ルート（大清水）



九頭竜川沿いの散策ルート

基本方針4 市民と行政が育む協働のまちづくり

(1) まちに対する誇りや愛着心の醸成と全ての人々が活躍できるまちづくり

ジオパークを構成する地形・地質遺産や自然遺産、歴史遺産、産業遺産など、勝山市にしかない魅力をホームページや広報、シンポジウム、まちづくりイベント、学校教育や生涯教育の場などを利用して積極的に発信し、まちに対する誇りや愛着心の醸成を図ります。

市民がまちづくりに関わっていることが実感できることで住み良さの評価につながり、また、市民がいきいきと暮らすまちは市外の人にも魅力的に映ることから、全ての人々が活躍できるまちづくりを進めることで「選ばれるまち」の実現を目指します。



ジオパーク講演会の様子



小学生による ESD 活動の様子



高校生ワークショップの様子

(2) 行政の横断的な組織体制づくり

勝山市都市計画マスタープランが目指すまちづくりの目標や方向性を、公共交通、農業、環境、防災、産業・観光、歴史・文化、教育、福祉などの関係部署との共有・連携を図り、横断的に取り組むための体制や仕組みなどを整えることによって、総合的な実現を目指します。

(3) 市民協働によるまちづくりの推進

ジオパークの理念である保護・保全、教育研究、地域振興等に即し、市民の主体的なまちづくり活動に対する様々な助成事業を活用しながら、市民、事業者、行政との協働によるまちづくりを推進します。

まちづくりに関する計画策定や事業の推進に際して、企画立案、計画策定、事業実施、評価検証などの各段階において市民の意見を反映させ、市民や関係者との円滑な合意形成を図ります。

また、協働のまちづくりに関する意識啓発や情報提供の充実を図るとともに、専門家によるアドバイザー制度などの新たな支援制度のあり方を検討します。

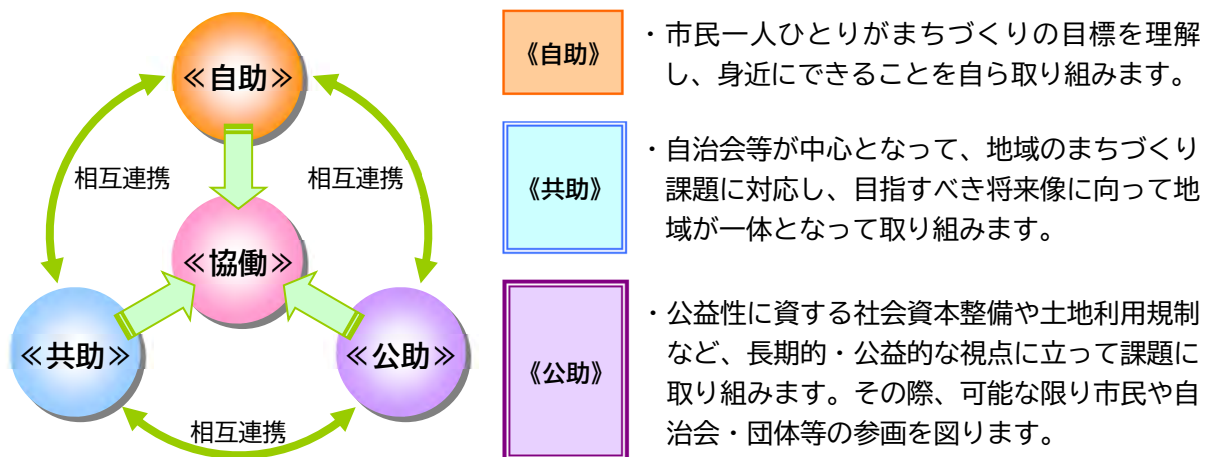


図 3-7 自助・共助・公助によるまちづくりの概念図

3-3 将来フレーム

(1) 人口フレーム

勝山市の人口は、市制施行以来、減少を続け、死亡数が出生数を上回る自然減、転出者が転入者を上回る社会減が続く中で、令和2年（2020年）には22,150人まで減少し、令和4年（2022年）1月に新たに過疎地域の指定を受けました。

国立社会保障・人口問題研究所が平成30年（2018年）に行った将来人口推計では、計画の目標年次とする令和13年（2031年）には19,648人と2万人を下回り、さらに長期的展望である令和23年（2041年）には16,742人にまで減少すると推計されています。

また、勝山市の人口の現状と将来の姿を示した勝山市人口ビジョン、地方創生と人口減少の克服に取り組むための指針となる第2期勝山市地方創生総合戦略では、国立社会保障・人口問題研究所の推計値を下回る予測を立てています。

人口の減少は、地域活力の低下やコミュニティの衰退のほか、利用者や税収の減少に伴う生活サービス機能や行政サービスの低下などにつながることも危惧されます。

勝山市外への流出抑制と勝山市へのU・Iターンを推進するために必要な施策を、関係部署と連携して総合的に推進するとともに、新しい技術も使いながら今あるストックを最大限に有効活用し、今まで以上に効率的にまちづくりを進めていくことが求められます。

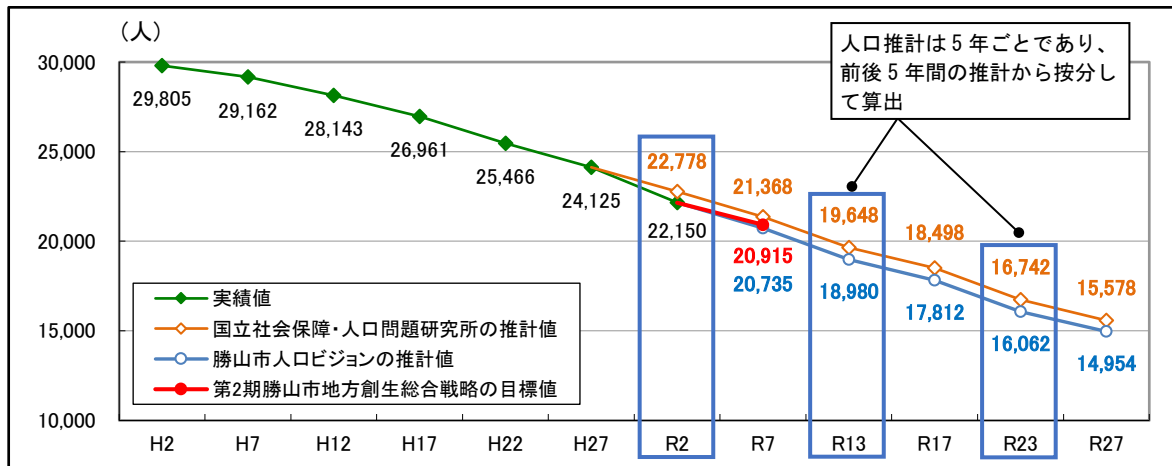


図 3-8 人口の推移と将来推計

(2) 土地利用フレーム

総人口に占める市街地人口の割合は横ばいで推移していますが、総人口が減少している中で、市街地においても空き家や空き地の増加が見られるほか、市街地外縁部には農地が比較的多く残っています。

そのため、将来の市街地規模は現在の用途地域と同程度とすることを基本とし、今後の宅地需要については、低未利用地（空き家、空き店舗、空き工場、空き地、農地、耕作放棄地等）を有効活用するとともに、用途地域の見直しなども含めて適正に誘導していくものとします。

ただし、一団の産業用地の確保など、現在の市街地内での確保が困難あるいは不適切と判断される場合には、周辺環境への影響に配慮しながら土地利用の展開を検討します。

一方、市街地内に残る一団の農地については、今後の宅地化の動向や所有者の意向等を踏まえつつ、関係部署と協議しながら望ましい土地利用の実現を目指します。